

令和2年度

# 岩見沢市教育行政点検評価報告書

岩見沢市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、令和2年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を実施しましたので、その結果について報告いたします。

令和3年10月28日

岩見沢市教育委員会

# 目 次

## 第1章 岩見沢市教育行政点検評価について

1	点検評価の目的	1
2	点検評価の概要	1
3	学識経験者の知見の活用	1

## 第2章 教育委員会の会議開催状況

1	教育委員会の会議	2
2	会議の実施状況	2

## 第3章 各事業の点検評価

1	事業一覧	7
2	各事業の点検評価表	
	学校教育の推進	8
	社会教育の推進	24
	子ども・子育て支援の推進	30

## 第4章 学識経験を有する方からの改善に向けたご意見

	学校教育の推進	39
	社会教育の推進	40
	子ども・子育て支援の推進	40

## 資 料

	令和2年度教育行政方針	41
--	-------------	----



## 第1章 岩見沢市教育行政点検評価について

### 1 点検評価の目的

この点検評価は、教育委員会が自らの権限に属する事務を点検・評価し、その結果に関する報告書を議会に提出・公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくという目的で実施しています。

### 2 点検評価の概要

対象年度は、教育委員会において令和2年度に実施した事務事業としています。

点検・評価を行う各対象事業については、教育行政方針に沿った施策を推進する上で、重点となる事業を選定いたしました。

点検評価の実施にあたっては、各事業における前年度までの課題を踏まえ「令和2年度の達成目標」を定め、「令和2年度の実施状況」について、評価・反省点を整理した上で、「今後の課題・取組の方向性」について検証し、今後の改善に向けた方針を明らかにするとともに、以後の事業運営に反映させることとしました。

なお、令和2年度の教育行政方針については、報告書の後段に掲載いたしました。

### 3 学識経験者の知見の活用

点検評価を行うにあたっては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定により、教育に関して学識経験を有する方の知見を活用することとされています。

このことから教育委員会では、下記の5名の方を岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員に委嘱し、5回の会議を通じて各事業の点検評価内容の説明を行うとともに、各委員から具体的な意見等を頂きながら点検評価を進めました。

なお、検討委員から頂いた改善に向けた意見の主なものについては、報告書の後段に掲載いたしました。

#### ○岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員

- ・山本理人：北海道教育大学教授
- ・金田貴彦：岩見沢市PTA連合会会長
- ・室永雅人：岩見沢市PTA連合会副会長
- ・岡嘉彦：岩見沢市社会教育委員（議長）
- ・西下摩利子：岩見沢市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部会 部会長

## 第2章 教育委員会の会議開催状況

### 1 教育委員会の会議

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき設置された合議制の執行機関です。

岩見沢市の教育委員会は、教育長を代表として、4人の教育委員により組織されており、その権限に属する事務を処理させるために事務局を設置し、学校教育や社会教育等に関する事務を一体的に行っています。

教育委員は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関して深い識見を持つ人の中から、市長が議会の同意を得て任命します。教育委員の任期は4年です。

教育委員会の会議には定例会と臨時会があり、定例会は原則として毎月第3水曜日、臨時会は必要に応じて開かれます。会議では、教育行政のあり方、教育関係の各種審議会等の委員の委嘱、各種規則等の制定などが話し合われます。

- |          |       |     |
|----------|-------|-----|
| (1) 開催回数 | ・定例会  | 12回 |
|          | ・臨時会  | 8回  |
| (2) 審議事項 | ・議決案件 | 46件 |
|          | ・報告案件 | 18件 |
|          | ・協議案件 | 9件  |

### 2 会議の実施状況

開催日	付議案件
令和2年4月15日	<p>〔議案〕</p> <p>第23号 岩見沢市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について</p> <p>第24号 岩見沢市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について</p> <p>第25号 岩見沢市立教育研究所運営委員会委員の委嘱について</p> <p>第26号 岩見沢市社会教育委員の委嘱について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第7号 教育長の一般経過報告について</p> <p>第8号 令和2年岩見沢市議会第1回定例会について</p> <p>〔協議〕</p> <p>協議4 岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員の選出方法について</p> <p>協議5 岩見沢市立学校通学区域審議会委員の選出方法について</p> <p>協議6 岩見沢市教科用図書調査委員会委員の選出方法について</p> <p>協議7 岩見沢市学校給食運営委員会委員の選出方法について</p> <p>協議8 岩見沢市立図書館協議会委員の選出方法について</p>

開催日	付議案件
令和2年4月30日 (臨時会)	〔議案〕 第27号 岩見沢市教育委員会の人事について
令和2年5月20日	〔議案〕 第28号 岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員の委嘱について 第29号 岩見沢市立学校通学区域審議会委員の委嘱について 第30号 岩見沢市立学校通学区域審議会に対する諮問について 第31号 岩見沢市教科用図書調査委員会委員の委嘱について 第32号 岩見沢市教科用図書調査委員会に対する諮問について 第33号 岩見沢市学校給食運営委員会委員の委嘱について 第34号 岩見沢市栗沢文化センター条例の廃止について 第35号 岩見沢市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について 第36号 岩見沢市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について 第37号 岩見沢市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について 第38号 岩見沢市子どもの体験活動事業補助金交付要綱の設定について  〔報告〕 第9号 教育長の一般経過報告について
令和2年6月17日	〔報告〕 第10号 教育長の一般経過報告について
令和2年6月29日 (臨時会)	〔議案〕 第39号 岩見沢市教育委員会の人事について 第40号 岩見沢市立学校職員の服務について
令和2年7月15日	〔議案〕 第41号 岩見沢市立小・中学校適正配置計画の策定について 第42号 岩見沢市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について 第43号 岩見沢市教科用図書の採択について  〔報告〕 第11号 教育長の一般経過報告について 第12号 令和2年岩見沢市議会第2回定例会について

開催日	付議案件
令和2年7月30日 (臨時会)	〔議案〕 第44号 岩見沢市教科用図書の採択について
令和2年8月7日 (臨時会)	〔議案〕 第45号 令和2年度教育委員会関係補正予算について
令和2年8月19日	〔議案〕 第46号 令和2年度教育委員会関係補正予算について 第47号 岩見沢市立学校職員の服務について 第48号 岩見沢市立図書館協議会委員の委嘱について  〔報告〕 第13号 教育長の一般経過報告について
令和2年9月18日	〔議案〕 第49号 令和2年度岩見沢市教育振興表彰について 第50号 岩見沢市GIGAスクール構想推進計画の策定について  〔報告〕 第14号 教育長の一般経過報告について
令和2年10月12日 (臨時会)	〔報告〕 第15号 教育長職務代理者の指名について
令和2年10月21日	〔議案〕 第51号 令和元年度岩見沢市教育行政点検評価報告書の提出について 第52号 岩見沢市栗沢文化センター条例施行規則の廃止について 第53号 東山公園庭球場、東山公園弓道場、東山公園陸上競技場及び岡山スポーツフィールドの指定管理者の指定について 第54号 いわみざわ公園野外音楽堂の指定管理者の指定について 第55号 岩見沢市あそびの広場の指定管理者の指定について  〔報告〕 第16号 教育長の一般経過報告について 第17号 令和2年岩見沢市議会第3回定例会について
令和2年10月30日 (臨時会)	〔議案〕 第56号 岩見沢市教育委員会の人事について
令和2年11月24日	〔報告〕 第18号 教育長の一般経過報告について

開催日	付議案件
令和2年12月23日	〔報告〕 第19号 教育長の一般経過報告について 〔協議〕 協議 9 令和3年度教育委員会関係予算見積り状況について
令和2年1月20日	〔議案〕 第1号 岩見沢市教育委員会における児童生徒を対象とする医学系研究実施要綱の設定について 〔報告〕 第1号 教育長の一般経過報告について 第2号 令和2年岩見沢市議会第4回定例会について 第3号 岩見沢市立学校通学区域審議会の答申について
令和3年2月17日	〔議案〕 第2号 令和3年度教育委員会関係予算について 第3号 令和2年度教育委員会関係補正予算について 第4号 令和2年度教育行政方針の設定について 〔報告〕 第4号 教育長の一般経過報告について
令和3年3月4日 (臨時会)	〔議案〕 第5号 岩見沢市立学校長人事について 第6号 岩見沢市立学校教頭人事について 第7号 岩見沢市立学校一般教職員人事について
令和3年3月17日	〔議案〕 第8号 岩見沢市立学校管理規則の一部改正について 第9号 岩見沢市一時預かり事業(幼稚園型)実施要綱の一部改正について 〔報告〕 第5号 教育長の一般経過報告について 〔協議〕 協議 1 岩見沢市いじめ問題対策連絡協議会委員の選出方法について 協議 2 岩見沢市いじめ問題専門委員会委員の選出方法について 協議 3 岩見沢市立教育研究所運営委員会委員の選出方法について

開催日	付議案件
令和3年3月25日 (臨時会)	<p>[ 議案 ]</p> <p>第10号 岩見沢市教育委員会の人事について</p> <p>第11号 岩見沢市立学校管理規則等の一部改正について</p> <p>第12号 岩見沢市立図書館及び岩見沢市来夢21図書館分館における資料複写サービス取扱要綱の設定について</p>

### 第3章 各事業の点検評価

#### 1 事業一覧

施策番号	教育行政方針の重点施策名	重点施策に関連する事務事業名	担当課	頁番号
<b>A 学校教育の推進</b>				
1	新しい時代に対応できる力の育成	1) 教育指導振興事業※ 2) 学び・心はぐくむ学校活動支援事業※ 3) 学力向上対策事業	指導室 指導室 指導室	8
2	豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進	4) 教育情報システム化推進事業	学校教育課	10
		5) GIGAスクール環境整備事業	学校教育課	
		6) 教育指導振興事業※	指導室	11
3	育ちと学びを支える教育環境の充実	7) 教育委員会事務局管理事業	学校教育課	13
		8) 小・中学校管理事業	学校教育課	14
		9) 教育支援センター事業	指導室	15
		10) 特別支援教育推進事業	指導室	17
		11) 教育研究所運営事業	指導室	
		12) 外国語指導助手活用事業	指導室	
		19		13) 小・中学校校舎等管理事業
14) GIGAスクールネットワーク構築事業	教育施設課			
4	信頼と期待に応える開かれた学校づくり	15) 教育指導振興事業※ 16) 学び・心はぐくむ学校活動支援事業※	指導室 指導室	20
5	緑陵高等学校の教育の充実	17) 学校管理事業	緑陵高等学校	21
6	学校給食の充実	18) 学校給食共同調理所運営事業	学校給食課	23
<b>B 社会教育の推進</b>				
1	生涯学習の充実	19) 市民の学び支援事業	生涯学習・文化・スポーツ振興課	24
2	芸術・文化活動の推進	20) 文化のまちづくり事業	生涯学習・文化・スポーツ振興課	26
		21) 地域文化振興事業	生涯学習・文化・スポーツ振興課	
		22) 郷土科学館管理運営事業	生涯学習・文化・スポーツ振興課	
3	スポーツ活動の推進	23) 健康・スポーツ振興事業	生涯学習・文化・スポーツ振興課	27
		24) スポーツ施設管理運営事業	教育施設課	28
4	図書館運営の充実	25) 図書館活動運営事業 26) ブックスタート事業	図書館 図書館	29
<b>C 子ども・子育て支援の推進</b>				
1	子ども・子育て支援の充実	27) 子ども・子育て支援事業※	子ども課	30
		28) あそびの広場運営事業	子ども課	
		29) 栗沢認定こども園運営事業	子ども課	32
		30) 保育所入所・幼稚園入所運営事業	子ども課	
		31) 病児・病後児保育運営事業	子ども課	
2	子育て相談体制の充実	32) 子育て総合支援センター事業※	子ども課	34
3	放課後活動の充実	33) 留守家庭児童対策事業	子ども課	36
4	青少年健全育成の充実	34) 青少年対策事業	子ども課	37
		35) 青少年育成事業	子ども課	

※複数の施策に関連する事業

#### 2 各事業の点検評価表

次頁以降のとおり

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	A-1	担当課 【 指導室 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	学校教育の推進 新しい時代に対応できる力の育成	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	1) 教育指導振興事業 2) 学び・心はぐくむ学校活動支援事業 3) 学力向上対策事業	

### 目 的 ・ 概 要

・子どもが自ら未来を切り拓いていく上で必要な資質・能力の育成を図るため、日常授業の改善を核とした学校改善に取り組み「子どもが輝く岩見沢の教育づくり」を展開する。  
 ・学校が一体となって組織的に機能する学校力の向上を図るため、ICTの効果的な活用やボランティアなど地域の教育資源を活用した活動などを支援する。

### 令和2年度の達成目標

- ・全国学力・学習状況調査正答率～80%
- ・標準学力検査～すべての学校が全国平均以上
- ・日常授業の改善の徹底～「子どもと創る授業」とピア・サポート
- ・学力向上策や豊かな体験活動の推進など、学校が企画する魅力ある教育活動への支援
- ・学習塾との連携による土曜学習会等の学力向上事業の推進

令和2年度の実施状況	評価・反省点
------------	--------

組織的な学校改善の核として「日常授業の改善」を位置づけ、児童生徒が知識・技能を活用し、思考・判断・表現しながら課題解決に向けて学習する「教えて考えさせる」授業スタイルを基盤とした「子どもと創る授業」と「ピア・サポート」による「傾聴・受容・共感」の学校風土づくりを推進した。	「日常授業の改善」は着実に進んでいる。今年度、全国学力・学習状況調査は未実施だったが、標準学力検査の結果などからそのことが表れている。
説明責任を果たすため市全体の全国学力・学習状況調査結果を数値で公表する予定だったが、未実施となり実現できなかった。しかし、各学校は標準学力検査の結果を保護者・地域に数値で公表した。	全国学力・学習状況調査問題への取組や標準学力検査結果結果を受けた分析・考察を確実に実施し、次年度の成果につなげることが重要である。
各学校の創意工夫を活かした教育活動に対して補助金を配分し、取組を支援した。 ・児童生徒の学びに向かう力を高める取組 ・教師の指導力・授業力向上のための取組 ・ボランティアなど地域の教育資源を活用した取組等	創意工夫ある魅力的な事業に重点配分したが、各学校の企画立案内容の格差が広がっている。
ICTの効果的な活用と情報活用に関わる実践力・授業力を高めるため、教員対象のタブレット端末活用についての研修会を複数回実施し、日常の教育活動に直結するよう努めた。	市内全教員が最低1回以上研修に参加し、タブレット端末活用の必要性や授業づくりに役立つ機会となった。
学力向上に係る各種事業を以下のとおり推進した。 ・学習塾との連携による土曜学習「Sスタディ」の実施 ・ALTを活用した「土曜キッズ英会話」の実施 ・英語3級の取得を目指す「英検学習会」の実施 ・囲碁授業の実施	コロナ禍における「Sスタディ」「英検学習会」への参加者増に向けた取組の工夫が必要である。

### 今後の課題・取組みの方向性

- ・「教えて考えさせる」授業スタイルを基盤とした「子どもと創る授業」の組織的な展開により、児童生徒が主体となる「日常授業の改善」を徹底し、学力の向上を図る。
- ・各校のマネジメントサイクルの徹底を図り、標準学力検査（全国学力・学習状況調査）における数値目標を確実に達成する。
- ・ICTを効果的に活用した教育の推進、「英語が使える岩見沢の子ども」の育成、地域の教育資源を積極的に活用した教育活動の推進など、これからの時代に対応できる教育の推進に努める。

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	A-2	<b>担当課</b> 【 学校教育課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	学校教育の推進 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	4) 教育情報システム化推進事業 (教育情報化推進環境整備事業) 5) G I G Aスクール環境整備事業	

目 的 ・ 概 要	
<p>進展を続ける高度情報通信ネットワーク社会に適応できる人材の育成を図るとともに、多様で高度な市民ニーズに応えるため、ICT（情報通信技術）を活用した効果的な授業の展開を進めるとともに、ICT環境の充実・維持及び情報活用能力の向上を図るなど、教育の情報化を推進する。また、ホームページや広報紙等を活用した教育情報の効果的な提供により市民サービスの向上を図る。</p>	
令和2年度の達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ G I G Aスクール構想による児童生徒一人一台端末の整備を実施する。</li> <li>・ デジタル教科書や動画教材などの教育コンテンツを有効に活用し効果的な授業の実施を推進する。</li> <li>・ 学習ソフトや授業支援ソフトなど授業で活用するソフトの基本的な研修をはじめ、教職員のネットワークにおける情報管理能力・危機管理能力向上のための研修を実施する。</li> <li>・ 教育委員会ホームページの適時更新及び内容充実を図るとともに、教育広報を年4回発行するなど、教育情報の積極的かつ細やかな提供を図る。</li> </ul>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
<p>段階的に整備予定だったタブレット端末について、コロナ禍における臨時休校等に対応させるため、全ての児童生徒及び教員に一人一台のタブレット端末の導入を前倒しで実施。</p>	<p>国の方針に対応し、一人一台のタブレット端末の導入を実施した。</p>
<p>動画教材「EDUMALL」を活用し、各校の要望に応じてデジタル教科書及びそれに準拠する教材等を配信した。</p>	<p>デジタル教科書は授業に活用されたが、各校での活用頻度のばらつきがあり、活用方法や効果について理解を深めることが必要。</p>
<p>G I G Aスクールサポーター制度を利用し、iPad機能に関する研修を実施（70名参加）。さらに、令和2年度に整備したWebexBoardにおけるWeb会議や各種機能の操作方法、オンライン学習での活用に関する研修を計2回実施した。（1回目15名、2回目66名）</p>	<p>様々な研修を通して徐々に教職員に浸透してきている。教職員の人事異動もあることから、研修の継続が必要。</p>
<p>教育広報「いわみざわの教育」は、コロナ禍により行事等の中止が相次いだことから年4回のところ3回の発行とした。行事等の開催が限られた中で教育委員会で実施している事業の情報提供を行った。</p>	<p>教育広報は行事等だけでなく様々な取組み等を紹介できた。</p>
今後の課題・取組の方向性	
<p>臨時休校等の緊急時における学びの保障のため、児童生徒1人1台のタブレット端末の持ち帰りができる体制を整備しているが、緊急時において迅速に対応できるよう実証実験等を通して懸念点の解消に取り組んでいく。 ICTを活用した教育が急速に進む中で、研修等を通して教職員の知識・技能の向上を目指していく。</p>	

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	A-2	担当課 【 指導室 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	学校教育の推進 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	6) 教育指導振興事業	

目 的 ・ 概 要	
<p>児童生徒一人ひとりの自尊感情や自己有用感の育成を図るための積極的な生徒指導を推進するとともに、命を大切に作る心や他人を思いやる心、美しいものや自然に感動する心などを育てる教育の充実を図り、豊かな人間性や社会性を育む。</p>	
令和2年度の達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒一人ひとりの自尊感情、自己肯定感の高揚を図る。</li> <li>・ 特別の教科道徳授業の質的向上を通して、心の教育の充実を図る。</li> <li>・ 地域の教育資源を活用した体験活動や読書活動を通して、豊かな感性や想像力を育む教育の充実を図る。</li> <li>・ 9年間を見通した体力づくりに取り組み、体力の向上や運動の習慣化を図る。</li> </ul>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
<p>市内全校でピア・サポートプログラムを導入し、児童生徒の「傾聴・受容・共感」による信頼関係の構築、自尊感情や自己有用感の高揚、自己の成長を実感できる学級づくりなどに生かした。</p>	<p>指導室指導員を学校に派遣したピア・サポート研修の推進により、各学校の実践を支援できた。また、市内教員による研修グループを立ち上げ、活動をスタートさせた。</p>
<p>市教育研究所「道徳」指定事業（栗沢小学校・栗沢中学校）や道外から講師を招聘し示範授業や授業研究を推進するなど、道徳の授業改善、指導内容の充実に向けた取組を展開した。</p>	<p>すべての学校における教員の道徳授業に対する意識改革が大きく進み、道徳の授業力向上に向けた積極的な取組が実施されるようになってきた。</p>
<p>全小中学校3学年分の「hyper-QU（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）」の予算化と実施により、よりよい学級集団づくりと児童生徒への指導に活かす取組を推進することができた。</p>	<p>教育支援センターによるhyper-QU活用研修と学校支援により、各学校の理解と活用が進んだ。</p>
<p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査は未実施となったが、各学校においては新体力テストの実施と分析に基づく体力や運動習慣等の実態把握と体力向上策を推進した。</p>	<p>指導室作成の体力カードの取組にとどまった。教育大学岩見沢校との連携を図る学校も増えてきており、積極的に進めていきたい。</p>
<p>学校教育指導による体育、保健体育の授業への指導・助言や体育専科教員加配事業の成果の普及などにより、特に小学校で体力向上に向けた授業改善に成果があった。</p>	<p>体育の授業のみならず、生活全般を通じた体力向上の取組が必要である。</p>

### 今後の課題・取組みの方向性

- ・「考え議論する道徳」への授業改善を確実に図るための研修の充実を図る。また、教育研究所における「部会・指定校連動研究システム」の推進を図る。
- ・読み聞かせボランティアとの連携による本に親しみ読書の魅力を高める取組や「朝読書」などの読書活動の継続実施を徹底する。
- ・体力向上に向けた取組を徹底するとともに、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施方法の改善や事前指導の充実を図る。

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	A-3	<b>担当課</b> 【 学校教育課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	7) 教育委員会事務局管理事業 (通学区域審議会運営事業)	

目的・概要	
<p>岩見沢市立学校通学区域審議会条例に基づき、教育委員会からの諮問に応じて審議会を開催し、学校の適正配置及び適正規模について検討するとともに、通学区域の見直しを図る。</p>	
令和2年度の達成目標	
<p>令和2年2月に作成した岩見沢市立小・中学校適正配置計画（案）を踏まえ、同計画を完成させるとともに、学校選択制度及び通学区域の今後の方向性について取りまとめる。</p>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
<p>令和元年度の通学区域審議会からの答申に基づき作成した適正配置計画（案）について、新型コロナウイルス感染症の影響により延期していた地域説明会を開催し、定例教育委員会での審議も経て、計画を策定した。</p>	<p>足元の感染状況を見極め、適切に地域説明会を開催し、計画策定ができた。</p>
<p>通学区域審議会を計画的に運営し、審議会からの答申に基づき令和3年3月に、学校選択制度の廃止と、1つの小学校から指定中学校が2校に分かれる通学区域の解消を見据えた方向性を取りまとめた。</p>	<p>審議会の運営から今後の方向性の取りまとめにかけ、予定どおり実施することができた。</p>
今後の課題・取組の方向性	
<p>北村・栗沢地域の小中一貫教育の導入に向け、市立教育研究所内に準備室を設置し、基本方針を策定するとともに具体的な検討を進めます。 また、学校選択制度と通学区域の見直しについて、保護者との意見交換会を開催し、実施に向けた取組みを進めます。</p>	

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	A-3	<b>担当課</b> 【 学校教育課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	8) 小・中学校管理事業 (学校における働き方改革の推進)	

目的・概要	
<p>教員の働き方改革を進めることで、教員の業務の質を高めると共に、日々の生活や教員人生を豊かにすることで、教員自らの専門性や人間性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行い、教育の質の向上を図る。</p>	
令和2年度の達成目標	
<p>岩見沢市立学校における働き方改革行動計画に基づき、教職員が本来担うべき業務に専念できる環境の整備や部活動に係る負担の軽減、勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実、学校に対するサポート体制の充実などについて取組みを進める。</p>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
<p>平成30年度に策定した「岩見沢市立学校における働き方改革行動計画」の最終年度に当たり、現行の行動計画について各学校における目標の達成状況の調査を行った。</p>	<p>次年度の第2期計画策定に向けた検証材料として調査結果を取りまとめることができた。</p>
<p>部活動の適切な運営と教職員の負担軽減を図るために、外部人材活用に向けた検討を進めるとともに、部活動従事に係る教職員の意識調査を実施した（回答率90.4%）。</p>	<p>教職員の意識を直接把握し、今後の地域人材活用等の検討資料とすることができた。</p>
<p>管理職や教育委員会の責務、相談窓口などを明記した「岩見沢市立学校における教職員のハラスメント防止等に関する指針」を策定した。</p>	<p>法改正を踏まえた道教委の指針の改正を受け、遅滞なく当市の指針策定を行うことができた。</p>
<p>学校職員のメンタルヘルス対策を推進するため、教職員のメンタルヘルスチェックを実施した。 (各学校において11月30日～12月13日に実施) (実施率：73.6% ※前年度62.6%)</p>	<p>予定どおり実施できたが、教職員の心身の健康増進のため、実施メリットの周知など、実施率の向上に取り組んでいく必要がある。</p>
<p>教職員の日常的な業務全般の効率化や負担軽減、教育の質の向上等に資するため、統合型校務支援システムを導入した。</p>	<p>学校現場との調整を図り、予定どおり令和2年度中に導入し、運用開始した。</p>
今後の課題・取組の方向性	
<p>より実効性のある取組みとして、校務支援及び出退勤システムの活用促進を図るほか、学校における事務負担の軽減や部活動の外部人材活用の導入検討を行うとともに、行動計画の達成状況の検証や次期行動計画の策定作業を進める。</p>	

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	A-3	<b>担当課</b> 【 指導室 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	9) 教育支援センター事業	

目 的 ・ 概 要	
<p>幼児、児童、生徒、保護者、学校等に必要な教育的支援を行い、子どもの人格の健全な成長を支援する。そのため、教育支援コーディネーターを相談窓口、関係機関とのパイプ役として配置し、必要に応じて、教育相談の専門家スタッフや登校支援室職員が支援を行う。</p>	
令和2年度の達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介リーフレットを小・中学校全家庭に配付するなど教育支援センターの周知に努める。</li> <li>・ 関係機関との連携を図り、悩み等の早期解決を図る。</li> <li>・ 専門家スタッフの積極的な学校訪問により、専門的見地からの実態把握や学校との連携を図った支援を実施する。</li> </ul>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
<p>教育支援コーディネーターを窓口として、スクールソーシャルワーカー、医師、心理の専門家（SCスーパーバイザー）が教育相談を行い、必要に応じて関係機関と連携を図り、相談者の悩み等の早期解決を図ることができた。</p>	<p>延べ相談件数 H27 424件 H28 831件 H29 1,241件 H30 2,026件 R1 2,113件 R2 904件 コロナ禍のため件数は減少したが、今後も迅速・適切な対応が必要である。</p>
<p>教育支援センタースタッフが学校訪問を行い、医療・心理の専門的な見地からの実態把握を行い、支援が必要な児童生徒に対する早期対応を図ることができた。</p>	<p>各学校における教職員との連携体制が確実に進んだ、学校からの積極的な相談・訪問要請に迅速に対応した。</p>
<p>特別支援教育専門員1名、スクールソーシャルワーカー2名（途中でSSWが1名）の体制を維持し、各種相談等に迅速かつ適切に対応した。</p>	<p>保護者や学校からの相談は多様化、複雑化しており、関係機関との連携を強化し、より迅速で機動的な対応が必要である。</p>
<p>登校支援については、緑が丘ルーム（集団指導中心）、有明ルーム（個別指導中心）を活用し、学習支援はもとより体験的な活動なども導入しながら個のニーズに応じた登校支援を行い、早期の学校復帰を目指した。</p>	<p>R2は、29人に登校支援を行い14人が学校復帰を果たすことができた。 (R1は、40人中10人復帰)</p>
<p>「hyper-QU（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）」の分析結果を学校にフィードバックし、よりよい学級集団づくりといじめ・不登校等の未然防止に資することができた。</p>	<p>hyper-QU活用の校内研修講師として専門家スタッフを各学校へ派遣し、教員研修を実施した。そのことを通して教育活動の改善に大きく貢献した。</p>

### 今後の課題・取組みの方向性

今後も積極的な学校訪問を実施し、支援が必要な児童生徒の早期発見に取り組み、発達障害や家庭問題等を要因とする課題の解決に向けて活動していく。登校支援室へ通級する児童生徒に対しては、未来志向で支援し、学校だけではなく社会とのつながりを重視した支援を行っていく。

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	A-3	<b>担当課</b> 【 指導室 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	10) 特別支援教育推進事業 11) 教育研究所運営事業 12) 外国語指導助手活用事業	

目 的 ・ 概 要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心身に障がいを持つ児童生徒及び特別な教育的支援を必要とする児童生徒の自立と社会参加に向けた教育的ニーズを把握し、適切な就学支援及び必要な支援を行う。</li> <li>・ 岩見沢市の教育の充実のため、教育課題の解明に向けた調査・研究事業などを推進する拠点として教育研究所を運営する。</li> <li>・ 「英語が使える岩見沢市の児童生徒」の育成を目指す。</li> </ul>	
令和2年度の達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の実態に応じて適切な支援を行い、一人一人の児童生徒の健全な発達を促す。</li> <li>・ 各種の研修講座や研究授業などを通して、教職員の実践的指導力の向上を図る。</li> <li>・ 学校での授業のみならず、子どもたちが外国の人とコミュニケーションを図る楽しさを体験することで、「英語が使える岩見沢市の子ども」の育成を目指す。</li> </ul>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
特別支援教育推進委員会、専門家チーム会議を開催するとともに巡回相談を実施し、特別支援学級はもとより、通常の学級における特別支援教育の充実に努めた。	特別支援教育のねらいや合理的配慮への理解が不十分な対応が散見され、改善に向けた指導を要する。
特別支援学級及び通常の学級に在籍する支援を必要とする児童生徒に対する支援のため、特別支援教育支援員を配置（令和2年度25名）するとともに、効果的な支援を実施するための研修会を実施した。	地方交付税算定基準である1校に1名の支援員配置となっているが、より多くの支援員の配置が必要な学校現場の状況である。
幼児ことばの教室において、言語聴覚士を含む3名の指導員による新規の相談者に対する教育相談、通級する幼児への指導・観察を実施した。	幼児ことばの教室と保健センター・子育て支援センター・子ども発達支援センターつみき園の効果的な連携に課題がある。
教育研究所の部会研究事業（第1部会から第4部会まで）と指定校が連動しての調査研究、遠隔学習をはじめとする情報教育事業、Web教材の作成、教育大学との連携事業等に取り組み、成果をあげた。	これまで以上に岩見沢の教育の成果に直結する事業を推進するため、運営や事業内容の改善を図っていくことが必要である。
9名の外国語指導助手を市内の各小・中学校及び緑陵高等学校に配置し、外国語科及び外国語活動における指導内容の向上に努めるとともに、小学校中学年・高学年を対象とした「土曜キッズ英会話」を実施した。また、中学生を対象とした「英検学習会」を開催した。	「土曜キッズ英会話」の事業充実を目指し、「英検学習会」での英検3級合格者増を目指す。

### 今後の課題・取組みの方向性

- ・特別支援教育の理解深化研修や専門家チームの在り方について検討し改善を図る。
- ・特別支援教育支援員の増員を目指し、子どもに寄り添う適切な配置に努める。
- ・幼児ことばの教室が関係機関と適切に連携できる体制を整備していく。
- ・教育研究所の存在価値を高める事業展開を図る。
- ・「土曜キッズ英会話」「英検学習会」の取組の充実を図る。

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	A-3	担当課 【 教育施設課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	1 3) 小・中学校校舎等管理事業 1 4) G I G Aスクールネットワーク構築事業	

目的・概要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の施設の維持管理や計画的な設備の更新・整備等を行い、教育環境の充実を図る。</li> </ul>	
令和2年度の達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の施設整備の維持管理を行い、児童生徒の安全確保と教育環境の充実を図る。</li> <li>・GIGAスクールネットワークの構築工事を行う。</li> </ul>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
①小中学校の校舎や屋内体育館における壁や床の破損、電気、機械及び給排水管設備等の故障や不具合については、安全性に関わるものを最優先に修繕を行なった。	予定どおり実施できた。
②GIGAスクールネットワークの構築を実施した。	予定どおり実施できた。
今後の課題・取組の方向性	
①小中学校の施設設備の維持管理について安全に関わるものを優先に修繕を実施する。	

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	A-4	<b>担当課</b> 【 指導室 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	学校教育の推進 信頼と期待に応える開かれた学校づくり	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	1 5) 教育指導振興事業※ 1 6) 学び・心はぐくむ学校活動支援事業※	

### 目 的 ・ 概 要

- ・コミュニティ・スクール、中学校区におけるコミュニティ・エリアの設置に努め、学校・家庭・地域が連携・協働した教育活動を推進することにより、「社会に開かれた教育課程」の実現に努める。
- ・子どもと向き合う有効な時間の確保のため、業務の見直しや改善に取り組み、学校における「働き方改革」を推進する。

### 令和2年度の達成目標

- ・学校評価の充実により、各学校の教育活動その他の学校運営の改善を図る。
- ・各学校が創意工夫を活かして企画立案する特色ある教育活動を積極的に支援するとともに、「学校・地域元気アップ支援事業」により地域人材をボランティアとして派遣し、学校・家庭・地域の連携・協働による教育活動を展開する。
- ・校務支援システムの導入などを通して、学校における「働き方改革」を推進する。

令和2年度の実施状況	評価・反省点
------------	--------

道のガイドラインによる緑陵高等学校、学校運営協議会を設置した8校を除く、市内全15小・中学校において、学校評価推進委員会を中心に自己評価を行うとともに、うち7校を対象校として学校関係者評価を実施し、学校改善に資することができた。	学校評価が形骸化している実態も見られることから、今後学校運営協議会へ評価機能が移行する際の取組の改善を要する。
学び・心はぐくむ学校活動支援事業により、学力向上に向けた取組や豊かな心を育む取組、体力向上に向けた取組等、各学校が創意工夫を活かして企画立案する特色ある教育活動を積極的に支援することができた。また、小中連携事業の増加、各学校における成果の発信が積極的に行われた。	事業の趣旨を活かした教育活動を積極的に展開する学校、小中連携に関わる事業が増加してきた。しかし、学校間格差が広がっている印象があることから、授業づくりに資する活動について積極的に支援していく。
学校支援ボランティアを広報、市教委ホームページ、町内会を通じて募り、学習支援、体力測定補助、環境整備活動、農業体験補助等、延べ5,571人（6月～3月）が活動した。 （前年度12,267人 前々年度13,825人）	今年度はコロナ禍により人数は減少したものの、各学校においてボランティアを有効的に活用した教育活動が継続的に行われている。

### 今後の課題・取組みの方向性

- ・今後、学校運営協議会への移行までは、各学校で行われる学校評価と学校関係者評価の一層の連動を進め、学校改善に資する取組へと改善していく必要がある。
- ・学校活動支援事業の趣旨を活かした教育活動がより多くの学校で積極的に展開されるよう、授業づくりなど子どもたちへ還元される活動を支援することを各学校に働きかけていくことが重要である。
- ・学校支援ボランティアの高齢化や需要と供給のズレといった課題の解消が急務である。

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	A-5	担当課 【 緑陵高等学校 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	学校教育の推進 緑陵高等学校の教育の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	1 7) 学校管理事業	

目 的 ・ 概 要	
市立高校として、地域の良さを学び地域社会の発展に貢献できる人材の育成を目指すとともに、家庭や地域社会と連携して市民に開かれた魅力あふれる学校づくりを推進する。	
令和2年度の達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び、考える生徒の育成</li> <li>・生徒の能力・適正に応じた進路の実現</li> <li>・教職員の専門性の向上と質の高い普通教育及び商業教育の提供</li> <li>・法令順守の徹底による円滑かつ適正な学校経営の推進</li> </ul>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
<p>コロナ禍の中での活動ではあったが、オンライン研修などを利用し、教職員の授業改善を目的に研修に努めた。限られた機会ではあるが、中学校の公開授業にも参加し、教科指導の向上に努めた。道内他校に先駆けてオンライン授業を展開し、ICT環境の整備とICT機器を使用した授業方法の研修に努めた。</p>	<p>コロナ禍の中でいち早くオンライン授業を進めたことは評価されたが、学校が通常授業の形で再開後はオンライン授業の研修が進まなくなった。</p>
<p>コロナ禍においても生徒の多様な進路希望に対応するために、年度当初より柔軟に計画を変更しながらできる形での進路ガイダンス等を実施して生徒の意識の高揚に努めた。 進学希望者への対応として、長期休業中や放課後に講習を実施した。進路に応じた複数の模擬試験を校内実施し、その結果分析を行った。就職希望者へはインターンシップ・模擬面接や公務員講習などを実施した。その結果国公立大学93名・看護学校21名・専門学校へ70名が進学し、民間就職では希望者23名全員が内定し、公務員就職が16名であった。 また、就職先事業所と就職者に対する連絡・問い合わせによる情報収集の実施、入社試験前の現場見学を徹底し、早期離職防止に努めた。</p>	<p>進学においては引き続き安全志向であった。すでに実施されている新大学入試の傾向を分析し、読解力・表現力を身につけるためのカリキュラムの実施の他、視野・見聞を広め自らの適性を知るためのガイダンス・個人面談指導の充実がますます必要になる。 就職においても堅実な進路選択で結果も良好であった。</p>
<p>教員による市内・管内中学校訪問の実施と情報コミュニケーション科の生徒による管内中学生への学校説明会や美園小学校4年生への英語の授業・ゲーム教材を使った講習を行った。</p>	<p>生徒によるプレゼンは好評であった。中3のみではなく、中2・中1や小学生、保護者も対象にした活動をしていく。</p>
<p>コロナ禍でも授業公開や芸術週間、地域の行事やイベントへの支援と積極的な参加、ボランティア活動など積極的に取り組み、開かれた学校づくりを推進した。</p>	<p>概ね順調に進めた。</p>
<p>P T A行事はほとんどが中止になったが、オンラインを活用しできるだけ保護者が行事に参加できる形態で学校行事を実施した。</p>	<p>概ね順調に進めた。</p>

### 今後の課題・取組の方向性

- ・「総合的な探究」「課題研究」の授業実践を活用し、本校生徒の活動を地域に発信するなかで、生徒のレジリエンスを高め、将来の「生き方」を見据えた進路実現につなげる。
- ・生徒・保護者の多様なニーズを踏まえ、深い思考を基盤とした学力の向上と主体性を養う特別活動・部活動の推進を図る。
- ・令和4年度からの1人1端末の導入に向け、授業におけるICT機器活用方法の研修を進める。
- ・令和4年度からの新学習指導要領の実施に向けて、入試制度や学科の在り方など将来の緑陵高校の姿について検討していく。
- ・市立高校として小中高の連携に努める。

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	A-6	<b>担当課</b> 【 学校給食課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	学校教育の推進 学校給食の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	18) 学校給食共同調理所運営事業	

目的・概要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・HACCPに基づいた衛生管理の徹底と、地元産の食材を積極的に活用し、安全・安心で子どもたちが健やかに成長できる学校給食に取り組む。</li> <li>・食に関する知識と望ましい食習慣を習得できるよう食育授業を充実させるとともに、試食会・施設見学等を通して給食に対する啓蒙活動を行う。</li> <li>・家庭や学校と連携し、子どもの命と健康を最優先とした食物アレルギーの対応を行う。</li> </ul>	
令和2年度の達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩見沢産キタノカオリを100%使用し、学校給食用パンの提供再開を行う。</li> <li>・食材に地場産物を積極的に取り入れ、地産地消を推進する。</li> <li>・食育を充実させるとともに、市民への給食に関する啓蒙活動を行う。</li> <li>・従来からの鶏卵アレルギーに加え、乳アレルギー対応食を実施する。</li> <li>・給食費未納対策を強化し、保護者負担の公平性を確保する。</li> </ul>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
学校給食用パンについて、岩見沢産小麦「キタノカオリ」を100%使用すること又地元業者で製造することを基本方針として、市内のパン業者から構成された「岩見沢パン協議会」と協議を進め、令和3年4月からの提供再開が可能となった。	様々な課題が浮上し調整に時間を要したが、1年間で提供再開に向けた準備を完了することができた。
主食となる米や、麺の小麦は全て岩見沢産を使用した。また、野菜等についても収穫時期に合わせた献立を立案し、積極的に岩見沢産地場産物を使用した（タマネギ、ニンジン、ヤーコン、手造り味噌等）。	岩見沢産の地場産物を積極的に使用し、地産地消を推進することができた。
栄養教諭が各学校へ赴き、小・中学校合わせて18校、85学級（延べ97学級）で食に関する指導を実施した。 なお、市民を対象とした施設見学及び定期試食会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため全て中止とした。	市内小中学校の一斉臨時休校に伴い4月～6月の食育授業が殆ど実施できなかったが、7月以降で対応することができた。
鶏卵アレルギー除去食を安全かつ安定的に提供するとともに、献立の制限はあるが乳アレルギー代替食を12月から開始した。 また、乳アレルギー対応の実施を見据えて「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」を9月に改訂し、各学校に配布した。	従前の鶏卵アレルギー除去食に加え、課題となっていた乳アレルギー代替食の提供を開始できた。
現年度給食費の未納者には、学校と連携し定期的に督促状を送付したほか、過年度分についても催告書送付、専門徴収員による戸別訪問・徴収のほか、12月には夜間訪問も実施した。	新型コロナウイルスや大雪の影響等により、個別訪問回数が減少した。
今後の課題・取組の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理業務における衛生管理を徹底するとともに、引き続き安全・安心を基本とした学校給食の提供を行う。</li> <li>・地元食材による地産地消を進めるとともに、食育の充実と学校給食の啓蒙に努める。</li> <li>・安全性を最優先とした食物アレルギー対応食の提供に努める。</li> <li>・給食費未納対策を強化し、保護者負担の公平性を確保する。</li> </ul>	

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	B-1	担当課 【 生涯学習・文化・スポーツ振興課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	社会教育の推進 生涯学習の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	19) 市民の学び支援事業	

### 目的・概要

生涯学習センターを拠点として、「いわみざわチャレンジスクール」や「いわみざわ市民大学」の開催など、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に学習機会の充実を図るとともに、生涯学習の情報発信、相談体制の充実、指導者育成に努め、市民の学習活動への支援を行う。

- ・すべての世代に向けた学習の場の提供、情報発信・相談体制・指導者育成。
- ・いわみざわ市民大学の開催とそれに伴う実行委員会等の設置・運営。
- ・児童・生徒を対象に、学習活動や体験活動（いわみざわチャレンジ・スクール）を実施。
- ・高齢者を対象とした社会参加意識の高揚を継続して進める。

### 令和2年度の達成目標

生涯学習センターを拠点に、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に学習機会の充実を図るとともに、学習情報や学習成果を生かせる場の提供に努め、市民の学習活動を支援する。

令和2年度の実施状況	評価・反省点
------------	--------

○高齢者対象講座  
新たな仲間づくりと生きがいの創造を通じて積極的な社会参加意識の高揚を図り参加者同士の交流と生きがいづくりを楽しむため、学習活動を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講座を中止しました。

本講座は、受講者の生きがい、仲間づくりの機会の場でもあるため、今後も感染防止対策を徹底するほか、事業内容を精査し継続実施する。

○いわみざわ市民大学（特別公開講座）  
一つのテーマで座学と体験の両方を受講できるプログラムを取り入れるなど魅力ある講義を目指し準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全講義を中止。  
そこで、市民の学習意欲に応えるため、特別公開講座を2回計画、今後を見据えた新しい取組みとして、オンラインによる受講を試験的に実施しました。（受講無料）  
①11月25日 受講者38人（内3人がオンライン受講）  
②2月24日 申込者35人（内5人がオンライン受講）  
※2回目は悪天候のため中止。

オンライン受講者から聞き取りを行い、資料配付のタイミング、カメラ位置の工夫などの意見を頂きました。  
感染防止対策を徹底し、場所を選ばず学習できる「いわみざわ市民大学」を目指すとともに座学・体験を両方受講できる講義を実施する。

○いわみざわチャレンジ・スクール  
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、8月末までに5つの事業を中止しましたが9月から事業を再開。  
音楽やスポーツ、工作や陶芸、屋外での遊び体験など、子どもたちが気軽に参加できる内容の事業を実施しました。  
（8事業、参加者121人）

学校では体験できないプログラムやモノづくりなどの体験活動を通して、子どもたちの休日をより有意義なものにすることができた。今後も感染防止対策を徹底し事業を継続実施する。

○みんなで教育を考える日  
生涯学習センターいわなびを会場に、教育に関わる各種団体が連携し、市民が共に考え取り組む事業や世代を超えた交流、関連事業として学校給食展、少年の主張、教育講演会等を実施していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を中止しました。

類似事業である「いわなびまつり」との統合も視野に、事業の内容を見直す。

### 今後の課題・取組の方向性

市民の学び支援事業では、コロナ禍にあっても興味・関心、社会・時代の変化に柔軟に対応した生涯学習の提供と学ぶ機会の維持向上、参加者同士の交流など、幅広い世代が生涯に渡って学び、自由かつ自主的な活動ができるよう取組を進める。

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	B-2	<b>担当課</b> 【生涯学習・文化・スポーツ振興課】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	社会教育の推進 芸術・文化活動の推進	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	20) 文化のまちづくり事業 21) 地域文化振興事業 22) 郷土科学館管理運営事業	

### 目的・概要

- ・心豊かな地域社会の形成を目指して、文化施設を活かした優れた芸術文化の鑑賞機会を提供し、地域文化の振興を図る。
- ・個性豊かな市民文化の創造に向けて、自主的な文化活動が多彩に繰り広げられ、身近に芸術文化にふれあう機会を拡充する。
- ・郷土資料の適切な管理と、児童・生徒を対象としたモノづくり、実験、観察などの体験型イベントを実施する。

### 令和2年度の達成目標

- ・市民の要望に沿った様々な芸術鑑賞機会を提供し、参加者の満足度を高める。
- ・市民の文化活動を支援し、市民が身近に文化に触れる機会を提供する。
- ・児童・生徒を対象としたモノづくり、科学実験、観察などの体験型事業を充実させる。

令和2年度の実施状況	評価・反省点
------------	--------

<p><b>【文化のまちづくり事業】</b> ○クラシックコンサートや、アマチュアバンドフェスティバルなどを実施。 7事業・集客数4,905人（インターネット配信含む）</p>	<p>コロナ渦にあっても、入場制限や無観客オンライン配信など工夫を凝らし、キタオンやまなみーるなどを会場に、市民に対し質の高い文化公演等を行うことができた。</p>
<p><b>【地域文化振興事業】</b> ○市民の文化祭の開催（岩見沢、栗沢とも舞台発表は中止） ・岩見沢地区：展示作品386点、来場者数928人 ・栗沢地区：展示作品677点、来場者数298人 ○子ども文化祭の開催（音楽発表は中止） 英語暗唱大会14人、展示発表913点</p>	<p>コロナ渦で舞台発表や音楽発表会は中止せざるを得なかったが、実現可能なものを模索し、展示発表を中心に実施することができた。</p>
<p><b>【郷土科学館管理運営事業】</b> ○新しいわみざわの民話を活用した事業として、3月に実施を予定していた科学館まつりで、プラネタリウム室を活用して星空を眺めながらの読み聞かせを行うこととしていたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため事業を中止した。</p>	<p>いわみざわの民話を語り継いでいくため、参加者の反応や感想を参考としながら、今後の事業展開を検討していく。</p>

### 今後の課題・取組の方向性

- ・市民要望の高い芸術文化事業の内容充実と同時に、積極的な広報活動を展開し、集客数の増を目指す。
- ・市民の文化活動の発表機会や鑑賞機会を充実し、文化に対する意識の高揚を図る。
- ・郷土科学館にて、充実した展示、体験型事業の開催により来館者数の増加を図る。
- ・北村、栗沢の収蔵品の整理

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	B-3	担当課 【生涯学習・文化・スポーツ振興課】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	社会教育の推進 スポーツ活動の推進	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	23) 健康・スポーツ振興事業	

### 目的・概要

・市民の健康づくりと生きがいづくりを促進するため、様々なスポーツ事業を実施する。また、各種スポーツの普及・振興と競技力の向上を図るため、スポーツ団体の活動や全国大会出場及び全道大会等の開催及び将来を担うアスリートの活動に対する支援を行う。

・トップアスリートの合宿誘致はコロナ禍にあって感染状況を見極めながら慎重に判断し取り組むとともに、障がい者スポーツに対する市民の理解と関心を高める。

### 令和2年度の達成目標

・スポーツ教室や大会の開催及び幅広い年齢層の参加者の獲得を図る。

・全国大会出場や全道大会等の開催に奨励金・補助金を交付し支援する。

・将来を担うアスリートの活動を支援する。

・トップアスリートの合宿誘致並びに合宿時における選手と市民の交流を図る。

・障がい者スポーツ体験イベントの開催の支援を行う。

令和2年度の実施状況	評価・反省点
------------	--------

○スポーツ教室や各種大会の実施 ・ウォーキングマラソン大会（中止） ・楽しいキッズスポーツ教室（6回実施・98人登録） ・市民歩け歩け大会（中止2回、実施1回・38人参加） ・歩くスキー教室（中止1回、実施1回・22人参加） ・歩くスキーの集い（1回実施・26人参加） ・おとなの体力測定会（1回実施・14人参加）	コロナ禍においても開催を模索し、ウォーキングマラソンは中止、キッズスポーツ教室と歩け歩け大会は実施回数が減少となったが、それ以外の事業については概ね予定通り実施した。
---	---

○報償金・補助金交付による支援 ・全道・全国大会の開催（全道3回、全国なし、補助金交付額150千円） ・全国大会出場（6団体・5個人、報奨金交付額360千円） ・将来を担うアスリートに対する支援（2個人・300千円）	全国大会出場のほか、アスリート奨励金制度に基づき、それぞれ報奨金を交付した。
---	--

○各種スポーツ団体との連携 ・スポーツ団体への支援（4団体、補助金交付額2,972千円） ・教育大学岩見沢校と連携し、ドイツ発祥のボールゲーム教室の「バルシューレ」をキッズスポーツ教室で実施。（1回）	キッズスポーツにおけるバルシューレについては、教育大の全面協力のもと実施することができた。
--	---

### 今後の課題・取組の方向性

・教育大学岩見沢校、スポーツ推進委員等との連携を強化し、スポーツ事業の内容充実に向け、参加者数の増加とスポーツ意識の高揚を図る。

・トップアスリートの合宿誘致は感染状況を見極めながら慎重に取り組むを進めるとともに、障がい者スポーツの普及促進を図る。

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	B-3	<b>担当課</b> 【 教育施設課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	社会教育の推進 スポーツ活動の推進	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	24) スポーツ施設管理運営事業	

目的・概要	
利用者が安全に安心して快適にスポーツを楽しむことができるよう、施設の環境整備を図る。	
令和2年度の達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者制度を活用し管理運営を実施</li> <li>・スポーツ協会からの要望や、緊急性を有するものから逐次計画的に施設修繕等を実施</li> </ul>	
令和元年度の実施状況	評価・反省点
①指定管理者制度を活用し、施設の効率的・効果的な管理運営ができるよう指定管理者の更新を行った。	予定どおり更新を行うことができた。
②各施設の修繕等については、利用者へのサービスに支障がないよう施設利用状況を把握し、計画的に行った。	予定どおり実施できた。
今後の課題・取組の方向性	
①指定管理者制度導入施設においては、今後も効率的・効果的な運営ができるよう適切に指定管理者の選定を行う。 ②施設の環境整備においては、引き続き経年劣化による修繕・改修実施に向け、計画的に予算組みをしていくことが課題である。	

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	B-4	<b>担当課</b> 【 図書館 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	社会教育の推進 図書館運営の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	25) 図書館活動運営事業 26) ブックスタート事業	

目的・概要	
<p>・図書、記録、資料などの収集・保存に努め、誰もが知識や情報を得ることができる環境を整えるとともに、司書の専門性を活かし、幅広い世代に対応した読書普及活動を推進する。</p> <p>・「いわみざわの子ども読書プラン」に基づき、子どもたちが本に触れる機会を広げるとともに、ブックスタート事業の充実に努める。</p>	
令和2年度の達成目標	
<p>①全館図書情報の共有と地域図書サービス拠点活用等による利便性向上                  ②広報誌やウェブ等による積極的な情報提供と誰もが知識・情報を得られる環境づくり                  ③司書の専門性の向上及び市民等との連携による幅広い世代に向けた読書普及活動                  ④学校や学校図書館、ボランティアと連携した子どもの読書の推進                  ⑤ブックスタートパック配布率の100%達成とフォローアップ事業の充実</p>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
①各館の地域性に合わせて図書資料を収集するとともに、計画立てて蔵書管理を行った。	予定どおり実施できた。次年度も引き続き計画的な蔵書管理を行う。
②利用者サービス向上のため、広報紙や図書館だより、ホームページに加え、FMはまなすやSNSなども活用し情報提供を図った。また、高齢者や図書館利用に支障がある人への音声図書サービスや読み聞かせ研修など幅広いサービスの実績を重ねた。	専門知識を持つボランティアや行政の関連部署等と連携し、引き続きサービスの充実を進める。
③司書全員に計画的に研修を受講させ専門性を高めるとともに、教育大と連携した館内展示の開始など、幅広い年代の読書普及と学びの支援を行った。	次年度も引き続き実施したい。
④ボランティアとともに取り組む子ども向けイベントの実施や読書ノート等の配布、ブックトーク、学校図書館を通じた市立図書館の本の貸出など、引き続き子どもたちが本に触れる機会を広げた。また、研修などによりボランティアの支援を行った。	読書ノート事業の企画展示を行い充実を図った。次年度も各事業を感染対策を講じた中で実施したい。
⑤対象の親子全員にブックスタートの絵本を贈った。また、健康づくり推進課・子ども課との協働で実施するベビカフェや、親子を対象とした絵本の読み聞かせの定期開催などのフォローアップ事業を行った。	コロナ禍により7月ベビカフェは中止としたが、他は感染対策を講じた中で実施できた。次年度も引き続き実施したい。
今後の課題・取組の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な蔵書管理と円滑な図書整備</li> <li>・地域図書サービス拠点との連携</li> <li>・司書研修の継続</li> <li>・高齢者や図書館利用に障がいのある人等を対象としたサービスの拡大と環境整備</li> <li>・学校と連携した子ども読書支援の継続、拡大</li> <li>・ブックスタート事業の継続</li> </ul>	

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	C-1	<b>担当課</b> 【 子ども課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	子ども・子育て支援の推進 子ども・子育て支援の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	27) 子ども・子育て支援事業 28) あそびの広場運営事業	

目的・概要	
<p>子どもたちが健やかに成長し、楽しく子育てができるまちを目指し、「第2期子ども・子育てプラン（令和2年度～6年度）」に基づき、困った時に必要な支援を受けられる「安全」、将来を見通せる子育て支援サービスを受けられる「安心」、成長を喜び、子育てが楽しくなる「笑顔」の3つの視点から各事業を実施する。また、子ども・子育て会議において、同プランの進行管理のほか、必要な施策等の協議を行う。</p> <p><b>【主な事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショートステイ、トワイライトステイの実施</li> <li>・産前産後ヘルパー事業の実施</li> <li>・ファミリー・サポート・センター事業の実施</li> <li>・一年を通じて天候を気にせずに楽しめる全天候型の「あそびの広場」の運営</li> </ul>	
令和2年度の達成目標	
<p>①子ども・子育て会議を開催し、岩見沢市子ども・子育てプランの進行管理を行う。</p> <p>②子ども・子育て会議に専門部会を設置し、子どもの体験活動事業補助金の募集要項の設定や対象団体の選考のほか、「えみふるふあいる」の普及・運用に向けた協議を行う。</p> <p>③産前産後ヘルパー事業のほか、ショートステイやトワイライトステイ、ファミリー・サポート・センター事業などの子ども・子育て支援事業を実施し、保護者負担の軽減や子育てと就労を両立できる環境づくりを行う。</p> <p>④あそびの広場を運営し、市内外から年間を通じて52,700人（目標値）を集客する【指定管理者：振興いわみざわ】。</p>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
<p>子ども・子育て会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月 第1回会議 保育サービスの提供体制の変更について協議</li> <li>・3月 第2回会議 R2年度主な新規事業の進捗状況について協議</li> </ul>	<p>ニーズ量を踏まえたプランの変更のほか、おはようキッズ事業、保育所の耐震改修、保育士等確保対策事業など新規事業に対する意見をいただいた。</p>
<p>子どもの安全と安心に関する専門部会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月 第1回会議 募集要項や審査方法等の設定</li> <li>・7月 第2回会議 補助金交付団体の審査</li> </ul> <p>えみふるふあいるに関する専門部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月 第1回会議 普及と効果的な運用方法について</li> </ul>	<p>こども食堂やプレパークなど中学校区で活動する計5団体に支援することができた。</p>
<p>子ども・子育て支援事業を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショートステイ実績：延利用者46人、92日間の利用</li> <li>・トワイライトステイ実績：延利用者1人、1日間の利用</li> <li>・産前産後ヘルパー実績：登録60人、利用回数295回、利用時間数581時間</li> <li>・ファミリー・サポート・センター事業実績： 援助活動件数409回、提供会員54人(+11)、依頼会員187人(+44)、両方会員4人(0)</li> </ul>	<p>ファミリー・サポート・センター事業は、保育園や放課後児童クラブへの送迎のほか、短時間の預かりなどコロナ禍にあっても、一定の利用があり子育てニーズに対応することができた。</p>

<p>・あそびの広場          コロナの影響により、年間263日間（昨年度より△45日）の開館にとどまったほか、第3クール休止や各クールの利用人数を100名とするなど、制限を設けての運営を余儀なくされた。</p> <p>○利用実績</p> <p>R02 19,437人（市内7,245人 市外10,809人 団体利用除く）          R01 55,303人（市内20,291人 市外33,819人 団体利用除く）          H30 66,492人（市内26,355人 市外38,911人 団体利用除く）          H29 56,528人（市内23,200人 市外32,010人 団体利用除く）</p>	<p>利用者数は昨年度と比較して約65%の減少となった。消毒作業のため現在も休止としている第3クールの活用等について、新規ソフト事業等の構築も含めて検討する必要がある。</p>
<p><b>今後の課題・取組の方向性</b></p>	
<p>「第2期岩見沢市子ども・子育てプラン（令和2年度～6年度）」に基づき、「安全」「安心」「笑顔」の3つの視点から事業を推進し、引き続き子どもたちが健やかに成長し、安心して子育てができる環境づくりに努める。また、子どもたちがどのような家庭環境、経済状況にあっても、誰一人置き去りにされることなく、将来に希望をもって成長できるよう、地域や保護者のニーズに応え、子ども・子育て支援事業に取り組んでいく。</p>	

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	C-1	担当課 【 子ども課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	子ども・子育て支援の推進 子ども・子育て支援の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	29) 栗沢認定こども園運営事業 30) 保育所入所・幼稚園入所運営事業 31) 病児・病後児保育運営事業	

目的・概要	
<p>子どもたちが健やかに成長し、楽しく子育てができるまちを目指した「岩見沢市子ども・子育てプラン（平成27年度～31年度）」に基づき、困った時に必要な支援を受けられる「安全」、将来を見通せる子育て支援サービスが受けられる「安心」、成長を喜び、子育てが楽しくなる「笑顔」の3つの視点から各事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栗沢認定こども園の運営管理</li> <li>・認可保育所の入所と特別保育等の実施及び幼稚園入所運営の実施</li> <li>・病児・病後児保育の実施</li> <li>・保育士等確保対策事業補助金の実施</li> </ul>	
令和2年度の達成目標	
<p>①保育所と幼稚園を一体的に運営する栗沢認定こども園の管理を行い、栗沢地域の子育て支援や地域交流の活性化を図る。                  ②認可保育所利用に係る事務、法人立保育園に対する運営費の支弁や特別保育など安定した保育環境を維持する。また、子ども・子育て支援新制度に移行した私立幼稚園に対する運営費を負担する。                  ③子どもの病気の回復期まで、保護者が仕事等により家庭で保育ができない場合に専用施設で一時的に保育を行う病児・病後児保育を実施し、仕事と育児の両立を支援する。                  ④市内の保育士又は幼稚園教諭の人材を確保するために必要な費用の一部について、補助金を交付することにより、幼児教育・保育の質の維持及び向上を図る。</p>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
<p>・保育所と幼稚園を一体的に運営する栗沢認定こども園の運営管理を指定管理者に委託し、保育と幼児教育を一体的に行った。</p>	<p>地域住民等の理解と協力により、栗沢地区の教育・保育環境支援の継続が図られた。</p>
<p>・認可保育所の利用を希望する児童の入所事務を行った。                  ・保育料基準額表を減額・細分化し、小学校3年生の子から数えて第3子目以降及び同時入所の第2子に係る保育料を無料とした。                  ・認可保育所19園、定員1,141人、令和3年3月初日の入所人員1,199人。認定こども園の幼稚園枠は31人。                  ・特別保育等：延長保育13園、一時預かり2園、休日保育1園、障がい児保育5園                  ・新制度に移行した私立幼稚園5園の定員795人、令和3年3月初日の入所人員778人。なお、10月から子ども・子育て支援法の改正により3歳から5歳までの保育料は無償となった。</p>	<p>・今年度についても待機児童は生じなかった。                  ・小規模保育施設を開設したことにより0、1、2歳児の受入れを増やすことができた。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・病児保育：岩見沢市立病児保育施設（9条西7丁目1-3）</li> <li>・病後児保育：岩見沢ひがし認定こども園病後児ルーム（東町1条8丁目932-67）</li> </ul> <p>登録児童数：112人  延べ利用児童数（病児49人、病後児1人）  利用料金 半日（5時間未満）1,000円  1日（5時間以上）2,000円</p> <p>※給食費等別途  ※生活保護及び市民税非課税世帯無料</p>	<p>病児・病後児保育の実施により、保護者の子育てと就労の両立を支援することができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士又は幼稚園教諭の人材を確保するために必要な経費の補助を行った。</li> </ul> <p>【対象施設】幼稚園・認可保育所・認定こども園・小規模保育園</p> <p>【対象職員】令和3年度に保育士・幼稚園教諭として新規採用する</p> <p>職員のうち、前年度に養成学校等を卒業する者</p> <p>【交付上限】1人につき200,000円以内</p> <p>【交付実績】認可保育所6園、計6名、交付額計1,200,000円  幼稚園2園、計4名、交付額計800,000円</p> <p>【実施期間】第2期子ども・子育てプランの計画期間  令和2年度～令和6年度まで</p>	<p>保育士等確保対策事業補助金の交付により、幼児教育・保育の質の維持及び向上が図られた。</p>
<p><b>今後の課題・取組の方向性</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栗沢認定こども園については、指定管理者との連絡調整を引き続き行い地域の保育等の支援を行う。</li> <li>・子ども・子育て支援法の改正により3歳以上の保育料が無償化した制度の周知を引き続き行う。</li> <li>・病後児保育施設については、仕事との両立を支援するためにも利用方法等を検討する必要がある。</li> </ul>	

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	C-2	担当課 【 子ども課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	子ども・子育て支援の推進 子育て相談体制の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	3 2) 子育て総合支援センター事業	

目 的 ・ 概 要	
<p>子育てに喜びや楽しみを感じ、安心して子どもを育てることができるよう、こども・子育てひろば「えみふる」を中心に、いつでも気軽に子育てや発達に関する相談や支援を受けられる環境づくりに取り組む。</p> <p><b>【主な事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て支援センターを中心とした相談等の実施</li> <li>・ 常設型子育て親子ひろば「ひなたっ子」の運営と地域親子ひろばへの支援</li> <li>・ 子ども発達支援センターを運営し、子育て支援の観点から早期療育につなげる相談支援</li> </ul>	
令和2年度の達成目標	
<p>① 子育て総合支援センターを中心に子育てや発達に関する相談や情報提供、各種行事等を実施することにより、子育てに対する負担感・不安感を軽減する。</p> <p>② 「ひなたっ子」において、子育て中の親子の交流の場を提供し、楽しい育児を支援する。</p> <p>③ 子ども発達支援センターの療育相談により保護者負担の軽減と早期療育を行うほか、1歳6か月児健診を受診するすべての子どもへ「えみふる ふぁいる」を配布するとともに、その運用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「えみふる」の各構成部門が連携し、生まれてから高校を卒業するまでの間、切れ目のない相談や支援を受けられる環境づくりを行う。</li> </ul>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
<p>子育て支援センターによる相談事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て相談 964件</li> <li>・ 家庭・児童相談 515件</li> <li>・ おしゃべりルーム 41回、388組、822名</li> <li>・ 小児科医による子育て相談 7回、78組、167名</li> </ul> <p>えみふる構成部門連携 相談・支援連携件数 312件 あそびの広場「子育て相談」 相談件数 18日89件</p>	<p>コロナに伴う感染拡大の影響により、えみふるへの来場者数が減少したことのほか、開催事業の縮小等により、相談件数等は減少した。</p>
<p>「ひなたっ子」において、民生委員児童委員をはじめとするボランティアの協力のもと、子育て中の親子の交流の場の提供と交流の促進を実施。</p> <p>ひなたっ子：開設180日、利用者数9,220人 地域親子ひろばへの支援：10回</p>	<p>コロナの影響により、利用人数の制限を図り、可能な限り親子が交流できる場を提供することができた。また、地域親子ひろばへの支援は訪問日を振り替えて実施した。</p>
<p>子ども発達支援センターによる相談・支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登録人数 就学児9名、未就学児403名 計412名</li> <li>・ 相談・支援件数 就学児31件、未就学児550件、計581件</li> <li>・ 療育支援教室こどもサポート「うずら」の開催 実施回数10回、支援児童数90名</li> <li>・ えみふるふぁいるの配布部数 390部</li> </ul>	<p>発達検査については、外出自粛などの影響もあり、件数は減少しているが、自宅で過ごす機会が増え、子どもとの関わり方についての電話相談を多く受けており、今後も発達段階に応じた対応が求められる。</p>

### 今後の課題・取組の方向性

対面での交流等が制限されるコロナ禍にあっても、すべての子どもと保護者が孤立することなく、相談や支援が受けられるよう子育て総合支援センターを中心に引き続き事業を推進する。また、子ども発達支援センター事業を実施し、「えみふる ふあいる」の活用により関係機関との連携を図り、早期発見・早期療育を含めた総合的な子育て支援を行う。

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	C-3	<b>担当課</b> 【 子ども課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	子ども・子育て支援の推進 放課後活動の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	3 3) 留守家庭児童対策事業	

目的・概要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校の児童に対し、安全で健やかに過ごすことができるように、児童館のほか、小学校クラブ等の計21か所で放課後児童クラブを運営する。</li> <li>・民間の放課後児童クラブ1か所の運営を支援する。</li> </ul>	
令和2年度の達成目標	
<p>①放課後児童クラブが、子どもたちにとって安全・安心で楽しい居場所となり、適正な規模で活動できるよう、必要な職員数の配置や施設・設備等の環境整備を行う。</p> <p>②特色ある取組を行う民間児童クラブに対し、国の補助基準に基づく補助金を交付し、経営の安定化を図る。</p> <p>③保護者の就労を支援するため、延長保育の実施のほか、土曜日や長期休業期間において、早朝の時間から子どもを見守る「おはようキッズ事業」を実施する。</p>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
<p>登録要件を満たす1～6年生の児童に対し、学年を分けて児童館12か所、小学校6校、公共施設2か所、地域施設1か所で児童の受入れを行った。</p> <p>また、全市的な親睦・交流の機会として例年開催している「児童館スポーツレク交流課」「高学年レクレーション交流会」「冬季レクレーション」は、コロナの感染拡大防止のため、児童館やクラブでの個別開催とした。</p>	<p>緊急事態宣言の発令に伴い、休校が約2か月間続く中、児童クラブは午前中から開所し、1から3年生に限って受け入れをするなど、保護者の就労を支えるため大きな役割を果たした。</p>
<p>特色ある取組を行う民間の放課後児童クラブ（1団体）に対し、補助金を交付した。</p> <p>（箇所数：1か所、補助金の額：合計7,776千円）</p>	<p>市営クラブと同様に休校期間中における開所措置に対し、経費を上乗せし補助金を交付することで、民間クラブの経営安定化を図ることができた。</p>
<p>保護者の就労等により延長保育を必要とする児童に対し、開所時間を1時間延長し、18時から19時まで受け入れを行った。また、土曜日や長期休業期間中に8時半からの受け入れでは、就労に間に合わない家庭を対象に、シルバー人材センターの協力を得て7時半から児童を受け入れする「おはようキッズ事業」を6月から開始した。</p>	<p>延長保育は1日平均で116人が登録し、22人が利用。おはようキッズ事業は1日平均で426人が登録し、3人が利用。就労に合わせそれぞれニーズに対応した。</p>
今後の課題・取組の方向性	
<p>子どもたちが安全・安心に活動し、健やかに成長できるよう、日々の活動や行事、イベント等に工夫を凝らし、コロナに対応した活動の充実を図る。また、保護者の子育てと就労の両立を支援するため、引き続き延長保育やおはようキッズ事業を実施する。</p>	

## 令和2年度 岩見沢市教育行政点検評価表

<b>施策番号</b>	C-4	<b>担当課</b> 【 子ども課 】
<b>教育行政方針の分野・重点施策名</b>	子ども・子育て支援の推進 青少年健全育成の充実	
<b>重点施策に関連する事務事業名</b>	34) 青少年対策事業 35) 青少年育成事業	

目的・概要	
<p>・青少年非行の早期発見、早期指導に努めるとともに、非行を招く環境の改善に取り組む。また、小中高等学校における生徒指導上の諸問題を共有し、生徒指導の充実を図る。</p> <p>・青少年が様々な人との交流を通じて、正しい判断力を持ち、社会参加することができるよう成長を支援するとともに、子どもの貧困対策の観点から体験の機会格差の解消を図るため、子どもの体験活動事業を推進する。</p>	
令和2年度の達成目標	
<p>① 青少年の健全育成及び非行防止を推進するため、青少年センターが中心となり、青少年問題協議会や小中高生徒指導連絡協議会と連携し、児童生徒を取り巻く諸問題について協議し、健全育成事業や生徒指導の充実を図る。</p> <p>② 少年の主張や子ども会事業など各種の青少年育成事業を通じ、青少年の自立と社会参加を促すとともに、学習や体験など子どもが自らの意思で参加できる機会の充実に向け、体験活動事業を実施する団体やグループを支援する。</p>	
令和2年度の実施状況	評価・反省点
<p><b>【非行防止関係】</b>                      コロナの影響により、以下の取組について規模を縮小し実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常補導</li> <li>・冬休み特別補導</li> <li>・立入調査や環境浄化モニターによる調査（携帯電話販売事業者、有害図書類、カワホックス等の調査活動等）の実施や広報紙の学校等への配布。</li> <li>・地区補導員連絡協議会及び町会育成協議会での情報交流。</li> <li>・生徒指導研究会、小中高生徒指導連絡協議会の開催</li> </ul>	<p>参集範囲の限定や会議を書面開催とするなど、手法を工夫することで、学校をはじめ、地域や各関係機関と連携し、青少年の非行防止に努めることができた。</p>
<p><b>【健全育成関係】</b>                      コロナの影響により、以下の事業について規模を縮小し実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域子ども会育成会連合会が主催する子ども書初大会</li> <li>・少年の主張岩見沢大会（原稿審査のみ）</li> </ul> <p>以下の事業については、中止とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域子ども会育成会連合会が主催する、子どもキャンプ、野球大会、炭鉄港ツアー、かるた大会</li> <li>・リーダー養成のための研修会への派遣（小学生：子ども会リーダー研修会、中学生：青少年の体験活動推進事業）</li> </ul>	<p>感染の危険性を回避できる事業のみの実施となったが、次年度は開催手法の工夫や事業の見直しを行い、自主性や社会性を育むことができる機会の確保に努めていく。</p>

<p>子どもが自分の意思で参加できること、学校を通じた情報の提供、参加に当たっての経済的負担の軽減などを条件に、こども食堂やプレーパークの活動など、公募で選ばれた5つの団体に対し上限10万円を補助した（青少年健全育成基金を活用）。</p>	<p>子どもに直接情報が届けられる広報活動のほか、遊びを通してのアプローチや、事業に飽きさせない工夫など団体等に対し、必要な視点について助言・支援が必要である。</p>
<p><b>今後の課題・取組の方向性</b></p>	
<p>「第2期岩見沢市子ども・子育てプラン（令和2年度～6年度）」に基づき、子どもの貧困対策の観点から、子どもの居場所づくりの充実に努め、未来を担う青少年が社会的に自立した生活を送ることができるよう、様々な体験活動等を提供していく。また、青少年センターが取り組む非行防止については、学校・家庭・地域の既存の枠組みだけでなく、児童に直接届けられるよう児童館を拠点とした非行防止教室に取り組んでいく。</p>	

## 第4章 学識経験を有する方からの改善に向けたご意見

### 《学校教育の推進》

#### 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進

##### 教育情報システム化推進事業について

I C T教育を推進するにあたって、教員間での格差が生じないように、研修等を通しスキルの向上を目指すとともに、学校や教員間で使い方や教え方について情報共有して広めていくことができるような体制を強化してほしい。

#### 育ちと学びを支える教育環境の充実

##### 小・中学校管理事業について

働き方改革において、未だ理想と現実の乖離があり、また、端末の導入により教職員への負担が増加する可能性も考えられることから、教員が児童生徒と向き合える環境づくりに努めてほしい。

##### 教育指導振興事業について

各学校の教育活動に対する補助金について、各学校の企画立案内容の格差があることから、取り組む姿勢を高めていくような方法を検討し、教育活動の底上げを図ってもらいたい。

##### 教育支援センター事業について

hyper-QU を活用して、より良い学級づくりを推進し、いじめ・不登校等の対策にも効果的であることから、引き続き活用に努めるとともに、不登校児童対策は児童生徒の将来へ重要な役割となることから、登校支援室やオンラインを活用し、個のニーズに応じた支援をお願いしたい。

##### 特別支援教育推進事業

特別支援教育支援員については配置されていない学校もあり、適切な就学支援のため全学校への配置をお願いしたい。また、特別支援学級の多い学校においても充足していないことから必要な支援員の配置をお願いしたい。

##### 教育指導振興事業

コミュニティスクールについて、学校を良くするだけでなく、地域も良くするという双方が共同して整備されることが必要と考えられることから、学校が地域に開かれている状態と地域住民が学べる場所として学校が存在しているという双方向がバランス良く実現できるように検討してもらいたい。

#### 緑陵高等学校の教育の充実

##### 学校管理事業について

学校説明会などで生徒自ら考えたプレゼン能力が高く、魅力的な学校づくりが伝わっている。生徒の意欲向上も期待できることから、資格取得など生徒の頑張りを積極的に情報発信してもらいたい。

## **学校給食の充実**

### **学校給食共同調理所運営事業について**

食育の推進にもつながるため、引き続き地元食材を積極的に取り入れるとともに、フードロスを減少させるため、調理方法を工夫するなどして食に対する教育を推進してもらいたい。

## **《社会教育の推進》**

### **生涯学習の充実**

#### **市民の学び支援事業について**

学習活動や体験活動について、コロナ禍においては実施が困難な状況であるが、多くの方が活動できるよう実施回数の増や対象学年の拡大などを検討してもらいたい。また、みんなで教育を考える日については、原点回帰も含めた事業内容の見直しを検討してもらいたい。

### **スポーツ活動の推進**

#### **健康・スポーツ振興事業について**

ウインタースポーツの事業について、スキーに特化したものだけでなく、公園や学校を利用した雪遊びなど新しい発想による雪をポジティブに考えた事業も検討してもらいたい。

## **《子ども・子育て支援の推進》**

### **子ども・子育て支援の充実**

#### **子ども・子育て支援事業について**

トワイライトステイや産前産後ヘルパーなど様々な子育て支援事業を実施しており、とても充実していると感じている。子育て世帯の負担軽減を図ることにより、子どもの健やかな成長につながることから、多くの市民に浸透できるよう情報発信に努めてもらいたい。

### **青少年健全育成の充実**

#### **青少年対策事業について**

様々な情報に触れる時代の中で、子どもたちがSNSやニュースソースを取捨選択できる力をつけられるよう、メディアリテラシーの教育をあらゆる機会を利用して充実してもらいたい。

#### **青少年育成事業について**

子どもの体験活動事業について、子どもの体験の場を提供する取り組みは今後も進めてもらいたい。活動団体が認知されていない可能性もあるので、多様な媒体を利用してPRしてもらいたい。

# 令和 2 年度 教育行政方針

## **I はじめに**

## **II 学校教育の推進**

- 1 新しい時代に対応できる力の育成
- 2 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進
- 3 育ちと学びを支える教育環境の充実
- 4 信頼と期待に応える開かれた学校づくり
- 5 緑陵高等学校の教育の充実
- 6 学校給食の充実

## **III 社会教育の推進**

- 1 生涯学習の充実
- 2 芸術・文化活動の推進
- 3 スポーツ活動の推進
- 4 図書館運営の充実

## **IV 子ども・子育て支援の推進**

- 1 子ども・子育て支援の充実
- 2 子育て相談体制の充実
- 3 放課後活動の充実
- 4 青少年健全育成の充実

## **V おわりに**

## I はじめに

子どもたちの将来は、A I や I o T に象徴されるように、加速度的に変化する社会において、複雑で予測困難なものとなっています。そうした時代を迎える子どもたちには、既存の枠組みや価値観にとらわれることなく、変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、人生や社会をよりよいものにするよう考え、行動することが求められます。

教育は、人を育てることを通して、未来を創造する営みです。

子どもたちが自分の将来に向けて、夢や希望を描き続け、困難にもあきらめることなく立ち向かい、自分らしさを発揮して自己実現を図るとともに、他者と協働しながら社会に貢献する資質や能力を身につけるように働きかけていくことが教育の役割です。

そのことを念頭に置いて、岩見沢市教育大綱に基づき、市民の信頼に応える温かい、心のこもった教育行政を推進してまいります。

学校教育につきましては、「子どもが輝く岩見沢の教育づくり」に向けて、日常の授業を改善することによって確かな学力の定着を図り、「授業づくりのまち岩見沢」として子どもと保護者の期待や信頼に応えてまいります。

社会教育につきましては、「生涯にわたって主体的に学ぶ環境づくり」に向けて、生涯学習の場を大切にし、芸術、文化、スポーツの振興や推進および図書館運営の充実に努めてまいります。

子ども・子育て支援につきましては、「誰もが笑顔で子育てできるまちづくり」に向けて、「えみふる」を中心に、各部署や機関が連携して、相談や支援が気軽に受けられる体制づくりを推進してまいります。

これより、本年度の施策の概要について述べてまいります。

## II 学校教育の推進

はじめに、「学校教育の推進」についてです。学校教育においては「子どもが輝く岩見沢の教育づくり」を推進してまいります。

## 1 新しい時代に対応できる力の育成

1点目は、「新しい時代に対応できる力の育成」についてです。

子どもが自ら未来を切り開いていくうえで必要な資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」を通して、確かな学力の定着を図ってまいります。

そのため、小中学校において何を学ぶかだけでなく、どのように学ぶかを重視し、子どもの思考に働きかける「教えて考えさせる」授業スタイルを基盤とした子どもの声が響き合う「子どもと創る授業」を推進いたします。

また、学力向上の基盤となる「傾聴・受容・共感」の信頼関係に基づく仲間づくりや学習スキルの向上による子どもたちの学びに向かう力の育成に努めてまいります。

さらに、状況を的確に把握し、目標を明確にしたP D C Aサイクルによるカリキュラム・マネジメントに基づき、教育課程の工夫・改善や小中学校が一貫した学力向上の取組みを組織的に推進してまいります。

また、I C Tの効果的な活用と情報活用の実践力を高める教育を推進するとともに、外国語指導助手を有効に活用するなど、「英語が使える岩見沢の子ども」の育成に向けて、外国語教育の充実を図ってまいります。

そのほか大学の教員による出前授業や協力授業など、北海道教育大学岩見沢校との連携を図った教育活動を推進するとともに、学校が企画・立案する学力向上の取組みを積極的に支援し、学校が一体となって組織的に機能する学校力の向上を図ってまいります。

## 2 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進

2点目は、「豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進」についてです。

子どもたちの豊かな人間性を育成し、よりよい仲間づくりにつながるピア・サポートの取組みにより自尊感情や自己有用感を育むとともに、誰もが自己の成長を実感し達成感の持てる授業づくり、子どもを主体として子どもに寄り添う日常指導に努めてまいります。

子どもたちがふるさとに愛着を持ち、岩見沢の人・歴史・文化・自然に

誇りを持てるよう「ふるさと教育」を推進してまいります。また、道徳教育の充実を図り、命を大切にし、豊かな人間性・社会性を育てる「心の教育」を推進してまいります。

さらに、体験活動や読書活動の充実を図り、豊かな感性や想像力を育ててまいります。

子どもたちの健やかな体を育成するため、すべての学年で行う体力テストの結果に基づき、体育の授業改善と9年間を見通した体力づくりに取り組み、体力向上や運動の習慣化を図ってまいります。

また、「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめとする「家庭での5つの約束」を基本とした活動を展開し、望ましい生活習慣の定着に努めてまいります。

さらに、薬物乱用防止教育や防災教育の充実を図り、自らの判断で自分の命を守ることでできる力を養ってまいります。

### 3 育ちと学びを支える教育環境の充実

3点目は、「育ちと学びを支える教育環境の充実」についてです。

「岩見沢市いじめ防止基本方針」に基づく「岩見沢市いじめ問題対策連絡協議会」等の組織や「教育支援センター」を中心に、いじめや不登校の問題をはじめ、悩み・不安を持つ子どもや保護者、学校を支援してまいります。

特別支援教育支援員や学校看護師の配置などにより、子ども一人ひとりの発達を保障する特別支援教育の充実に努めるとともに、将来の生き方や望ましい職業観・勤労観を育むキャリア教育を一層推進してまいります。

また、学習塾との連携により土曜学習会・英検学習会を統合して実施するS・Eスタディ、囲碁の授業、長期休業中の「学び合い広場」など、多様な学ぶ場と機会を提供してまいります。

教育研究所では、学力・体力の向上、教師力・学校力の向上、地域や大学との連携など、教育効果を高めることに重点を置いて「調査・研究」「養成・研修」の充実を図ってまいります。

教員の実践的指導力を高め、専門的力量を発揮できるよう、資質・能力

の向上を図る各種研修を実施してまいります。

また、児童生徒数の減少が見込まれる将来において、地域性に応じた特色ある学校づくりや適正な規模による学校教育が行われるよう引き続き検討するとともに、子どもたちの安全・安心で快適な教育環境を確保するため、学校施設の老朽化対策など施設設備の改修を行ってまいります。

#### 4 信頼と期待に応える開かれた学校づくり

4点目は、「信頼と期待に応える開かれた学校づくり」についてです。

学校においては、子どもたちの未来を生き抜くために必要な資質・能力を育むため、「社会に開かれた教育課程」を実施し、教育活動や学校運営の改善・充実を図るとともに、業務の見直し・改善により、子どもと向き合い、子どもを徹底して大切にす教育の実現に向けて「学校における働き方改革」を推進してまいります。

また、コミュニティ・スクール、中学校区におけるコミュニティ・エリアの設置をすすめ、学校・家庭・地域が連携・協働した教育活動の推進、子どもを見守り、安全・安心な環境の確保に取り組んでまいります。

さらに、各校種間での連携・交流を促進し、学びの連続性を大切にした教育活動を展開してまいります。

#### 5 緑陵高等学校の教育の充実

5点目は、「緑陵高等学校の教育の充実」についてです。

市立高校として、地域のよさを学び地域社会の発展に貢献できる人材育成を目指して家庭や地域と連携するとともに、ICT環境の充実や英語教育の充実など創意工夫に富んだ質の高い教育を提供してまいります。

また、普通科「普通コース」と「スポーツ総合コース」、情報コミュニケーション科それぞれの特色を活かして、生徒が希望する多様な進路に対応した教育課程を編成・実施し、将来の自己実現に向けた資質・能力を育成する活力と特色ある学校づくりを推進してまいります。

#### 6 学校給食の充実

6点目は、「学校給食の充実」についてです。

学校給食共同調理所においてH A C C Pに基づいた食品の衛生管理を徹底するとともに、新鮮で安全な地元産の食材を積極的に活用し、安全・安心で子どもたちが健やかに成長できる学校給食に取り組んでまいります。

また、栄養教諭による食育の授業や共同調理所の見学等を通じて子どもたちが食に関する正しい知識を習得し、望ましい食習慣を身につけることができるよう、食育の充実に取り組んでまいります。

食物アレルギーについては、子どもの命と健康を守ることを最優先として、アレルギー対応に家庭や学校と連携して取り組み、安全で喜ばれる学校給食の提供に努めてまいります。

また、市民が学校給食を身近なものとして感じ、理解を深めていただけるよう、定期的な試食会や施設見学などに引き続き取り組んでまいります。

### III 社会教育の推進

次に、「社会教育の推進」についてです。「第2期岩見沢市社会教育中期計画」に基づき、市民の学びが地域づくりやまちづくりにつながるよう取り組みを進めてまいります。

#### 1 生涯学習の充実

1点目は、「生涯学習の充実」についてです。

子どもから高齢者まで、誰もが生涯にわたって学ぶことの楽しさを実感し、生きがいのある豊かな生活を送るため、興味・関心に応じた自由な学習活動ができるよう、生涯学習センターを拠点に「いわみざわチャレンジスクール」、「いわみざわ市民大学」、「高齢者対象講座」の開催など、多様な学習機会の充実に努めてまいります。

また、市民の自主的な学習活動に対して、人材バンク登録者を紹介するなど、積極的に支援してまいります。

#### 2 芸術・文化活動の推進

2点目は、「芸術・文化活動の推進」についてです。

芸術文化は、豊かな創造性や感受性を育み、人々の生活に潤いと活力をもたらします。

芸術文化の鑑賞機会や活動機会の充実のため、岩見沢文化連盟や北海道教育大学などと連携し、「市民の文化祭」をはじめ、まなみーるや絵画ホールなどでの各種事業の実施に取り組むとともに、文化団体の活動や全国大会出場者に対する支援、文化施設の安全で快適な環境づくりに取り組んでまいります。

また、郷土の歴史文化に触れる企画展や講座の開催などにより、指定文化財や各種郷土芸能を次世代に守り伝える取り組みを進めてまいります。

### 3 スポーツ活動の推進

3点目は、「スポーツ活動の推進」についてです。

生涯を通じて誰もがスポーツに親しみ、充実した活動ができるよう、岩見沢市体育協会やスポーツ推進委員などと連携し、「楽しいキッズスポーツ教室」や「ウォーキングマラソン大会」の開催など、体を動かす機会の充実に努めてまいります。

また、各種スポーツ団体の活動や全国大会出場者、アスリートとして将来を期待される子どもたちを支援するとともに、スポーツ施設の安全で快適な環境づくりに取り組んでまいります。

さらに、東京オリンピックのマラソン・競歩が札幌で開催されることを受け、北海道教育大学等との連携のもと、オリンピック・パラリンピック競技の合宿誘致を進めるとともに、障がいのある人もそうでない人も共に楽しめる「アダプテッド・スポーツ」など、多様なスポーツの普及・促進を図ってまいります。

### 4 図書館運営の充実

4点目は、「図書館運営の充実」についてです。

図書館は、地域の知の拠点として図書、記録、資料などの計画的な収集・整備に努め、司書の専門性を活かして、誰もが知識や情報を得ることができる環境を整えてまいります。

また「いわみざわの子ども読書プラン」に基づき、学校図書館との連携

やブックスタート事業など、子どもたちが本に触れる機会を広げるとともに、社会教育施設との連携や市民団体との協力により幅広い世代の読書活動や学びを支援してまいります。

## IV 子ども・子育て支援の推進

次に、「子ども・子育て支援の推進」についてです。すべての子どもと保護者が、将来に希望を持てるよう「誰もが笑顔で子育てできるまちづくり」を推進してまいります。

### 1 子ども・子育て支援の充実

1点目は、「子ども・子育て支援の充実」についてです。

令和2年度からの5年間を計画期間とする「第2期 岩見沢市子ども子育てプラン」は、子どもたちがどのような家庭環境、経済状況にあっても、誰一人置き去りにされることなく、将来に希望をもって成長できることを目指しています。そのため、地域や保護者のニーズに応え、子どもたちが健やかに成長するための事業に取り組んでまいります。

こども・子育てひろば「えみふる」では、あそびの広場を含めた各部門が連携して支援に努めるとともに、ファミリー・サポート・センターを通して子育ての相互援助活動を実施いたします。

保育と幼児教育については、3歳以上の幼児教育と保育の無償化に関する情報提供を行うとともに、一時預かりや病児・病後児保育事業など多様な保育を実施いたします。また、3歳未満の保育料については、基準額表の減額細分化や第2子、第3子保育料の無償化に引き続き取り組み、「このまちで、子どもを産み、育てたい」という思いに応える環境づくりに取り組んでまいります。

### 2 子育て相談体制の充実

2点目は、「子育て相談体制の充実」についてです。

子育て支援センターに療育相談機能を加えた、子育て総合支援センターが中心となり、いつでも相談や支援が受けられるよう、「えみふる」の各部門及び児童相談所等関係機関が連携・協力して、子育て相談体制の充

実を図るとともに、支援を必要とする家庭や子どもに最も身近な支援者である保育所、幼稚園、学校等と定期的に情報を共有し、子どもの安全を見守ってまいります。

また、子どもの成長記録を保存し、必要に応じて支援に役立てることができるよう、1歳6か月健診を受診するすべての子どもに「えみふるファイル」を配布し、各機関と協力して子どもの成長を支えてまいります。

### 3 放課後活動の充実

3点目は、「放課後活動の充実」についてです。

子どもたちに遊びと生活の場を提供する児童館を運営するほか、留守家庭の小学生が利用する放課後児童クラブでは、異年齢交流や地域の特色を取り入れた体験活動に取り組みます。また、地域と連携して学校休業日の受入時間を朝7時30分に早め、仕事と子育ての両立を支援します。メープル小学校においては、地域スポーツクラブと連携した放課後教室を開設するなど、子どもの成長を支え、子育てを支援してまいります。

### 4 青少年健全育成の充実

4点目は、「青少年健全育成の充実」についてです。

岩見沢市地域子ども会育成会連合会などの関係団体と連携し、さまざまな体験活動に取り組むほか、新たに、地域ぐるみで子どもを育てる活動に取り組む団体等を支援します。また、青少年センターを中心に、学校・家庭・地域の協力を得ながら、街頭補導や有害環境の改善に努めてまいります。

さらに、低年齢化する携帯電話やスマートフォン利用に対応し、学校においては情報モラル教育やメディアリテラシーの向上に取り組み、家庭に対しては「携帯・スマホのきまり」や「ゲーム・インターネット・SNSに関する家族の約束」等の普及啓発により、親子が共に考え、正しく行動できるよう、支援してまいります。

## V おわりに

教育は、人を幸せにするものです。

「岩見沢で子育てがしたい」「岩見沢で学びたい」「岩見沢に住みたい」と誰もが思い、人づくり、まちづくりに貢献する教育施策の推進に努めてまいります。

最後になりますが、現在、新型コロナウイルス感染症が日本国内で拡がっており、北海道においても感染が拡大しています。

教育委員会では、強い危機感をもって、市内小中学校の臨時休校やあそびの広場、ひなたっ子などの子どもを対象とした施設の閉鎖や図書館をはじめとした社会教育施設の利用制限など感染拡大防止に努めてまいりました。

また、共働き家庭やひとり親家庭の子どもたちが安全に過ごすことができるよう、放課後児童クラブの再開に向けて準備を進めているところです。

今後も、子どもたちの安全と安心を最優先に家庭、学校、地域と協力し、関係機関と連携して対策に取り組んでまいります。

議員の皆さま、市民の皆さまのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。